



イッカク「一角鯨考」より



蘭引

テーマ展2

ICHINOSEKI CITY MUSEUM THEME EXHIBITION

ICHINOSEKI CITY MUSEUM THEME EXHIBITION

くすり文化誌

江戸時代の洋薬



人魚「六物新志」より



安産樹「蘭説弁惑」より



サフラン「六物新志」より



オランダ渡青薬瓶



オリーブ「蘭説弁惑」より



百味筆筍(菅原清蔵コレクション)

アロエ「蘭晩摘芳」より



ザリガニ「蘭説弁惑」より



薬研(菅原清蔵コレクション)



エブリコ「六物新志」より



ニクツク「六物新志」より



薬箱(個人蔵)

10 (土) 12

12 (日) 8

令和元年

入館無料日

10月12日(土)、22日(火)、26日(土)、27日(日)、11月3日(日)

一関市博物館

ICHINOSEKI CITY MUSEUM

岩手県一関市殿美町字沖野々215番地1
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>



売薬や家伝薬が一般化し、薬の知識が広まった江戸時代。長崎での貿易により、オランダや中国を経由して入ってきた海外の薬物も、憧れや希少価値をもって受け入れられました。

一関出身の蘭学者大槻玄沢は、イッカクや人魚、アロエやタバコなど、世界の薬効のある品々を研究し本に著しました。薬を通して人々の視界は世界に広がったのです。

人々の健康を支えた江戸時代の薬の文化を紹介します。



薬の包み(個人蔵)



大槻玄沢「篤録」



蘭方薬看板

イッカクの角状牙



印籠



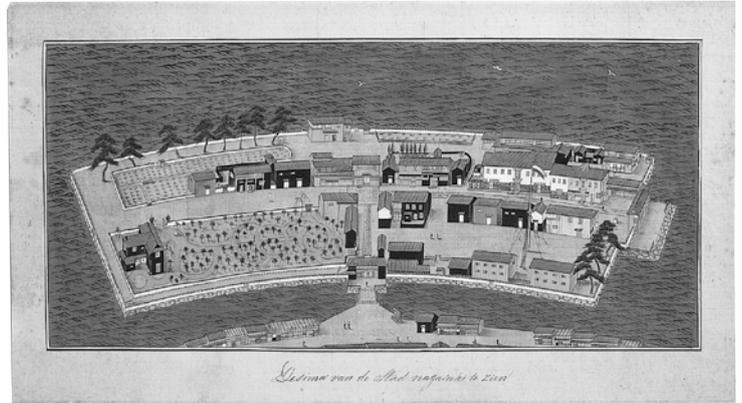
宇田川玄真「和蘭薬鏡」



ウルユス



海馬(個人蔵)



出島図

講演会



「江戸時代の毒と薬」

講師 船山信次氏(日本薬科大学教授)
日時 11月17日(日) 13:30~15:00
定員 一般100名(要申込)
参加料 無料



チョウセンアサガオ

展示解説会

10月12日(土) 13:30~14:30
11月17日(日) 15:15~16:00
11月24日(日) 10:30~11:30
13:30~14:30
申込不要、入館料が必要です

はくぶつかんこどもくらぶ

11月10日(日) 13:30~16:00
「牛乳パックで望遠鏡をつくろう」
小学生以上、親子25名(要申込)

持ち物
1ℓの牛乳パック2個、
材料費500円

館長講座

11月3日(日) 13:30~15:00
「大槻玄沢と寒地医療～仙台藩蝦夷地警固と関わって～」
講師/菊池勇夫館長 定員50名(要申込) 参加無料

それぞれの申し込みは電話で一関市博物館へ TEL 0191-29-3180

一関市博物館

ICHINOSEKI CITY MUSEUM

〒021-0101 岩手県一関市巖美町字沖野々215番地1
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>



開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料 一般 300円(240円) 高校生・大学生 200円(160円) 中学生以下 無料 ※()内は団体(20名以上)割引料金

次の方々の入館料は免除となります
①障がい者・介護者の方(障がい者手帳などを提示願います。) ②65歳以上の一関市民の方(年齢・住所が証明できるものを提示願います。)

共通入場券 1年間有効1,000円/10日間有効500円

※有効期限内に限り、何度でも対象施設に入館可能(一関市博物館、芦東山記念館、石と賢治のミュージアム、大籠キリシタン殉教公園)

交通案内

[自動車]一関ICより西へ約7分(5km)、一ノ関駅より西へ約17分(9km) [路線バス]一ノ関駅前9番乗り場巖美方面行約20分(巖美溪バス停下車徒歩7分)

